

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年8月9日

【四半期会計期間】 第110期第1四半期(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

【会社名】 株式会社 北日本銀行

【英訳名】 The Kita-Nippon Bank , Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役頭取 佐藤 安紀

【本店の所在の場所】 岩手県盛岡市中央通一丁目6番7号

【電話番号】 盛岡(019)653局1111番(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営企画部長 柴田 克洋

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田錦町一丁目8番地
株式会社北日本銀行 東京事務所

【電話番号】 東京(03)3294局0151番

【事務連絡者氏名】 東京支店長兼東京事務所長 北條 雅史

【縦覧に供する場所】 株式会社 東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社北日本銀行 仙台支店
(宮城県仙台市青葉区中央三丁目10番19号)

株式会社北日本銀行 東京支店
(東京都千代田区神田錦町一丁目8番地)

(注) 東京支店は金融商品取引法の規定による備付場所ではありませんが、
投資者の便宜のため備えるものであります。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

		平成24年度第1四半期 連結累計期間	平成25年度第1四半期 連結累計期間	平成24年度
		(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)	(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
経常収益	百万円	6,711	6,038	25,085
経常利益	百万円	1,608	869	4,185
四半期純利益	百万円	985	530	
当期純利益	百万円			2,101
四半期包括利益	百万円	1,045	852	
包括利益	百万円			6,104
純資産額	百万円	52,988	56,680	57,789
総資産額	百万円	1,320,793	1,393,604	1,380,923
1株当たり四半期純利益金額	円	115.21	62.03	
1株当たり当期純利益金額	円			245.66
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益金額	円			
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	円			
自己資本比率	%	4.0	4.1	4.2

(注) 1. 当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 1株当たり情報の算定上の基礎は、「第4 経理の状況」中、「1 四半期連結財務諸表」の「1株当たり情報」に記載しております。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 自己資本比率は、（（四半期）期末純資産の部合計 - （四半期）期末新株予約権）を（四半期）期末資産の部の合計で除して算出しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当行グループ（当行及び当行の関係会社）が営む事業の内容については、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても、異動はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）セグメント情報」の「4. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した当行グループ（当行及び連結子会社）の事業等のリスクについて、重要な変更はありません。また、新たに発生した事業等のリスクに係る事項はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

業績の状況

経営成績

当第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年6月30日）の経常収益は、貸出金の利回り低下に伴う資金運用収益の減少や貸倒引当金戻入益の減少などにより、前第1四半期連結累計期間比673百万円減少して6,038百万円となりました。

経常利益は、与信費用が増加したことなどから、前第1四半期連結累計期間比739百万円減少の869百万円、四半期純利益は前第1四半期連結累計期間比455百万円減少の530百万円となりました。

セグメント毎の損益状況につきましては、「銀行業」の経常収益が貸倒引当金戻入益の減少を主因に前第1四半期連結累計期間比790百万円減少して5,335百万円、セグメント利益である経常利益が与信費用の増加などにより前第1四半期連結累計期間比756百万円減少して813百万円となりました。「リース業」の経常収益がリース料収入の増加を主因に前第1四半期連結累計期間比95百万円増加して700百万円、セグメント利益である経常利益が経常収益の増加などにより前第1四半期連結累計期間比7百万円増加して33百万円となりました。「その他」の経常収益がクレジットカード業務収入の増加等により前第1四半期連結累計期間比7百万円増加して89百万円、セグメント利益である経常利益が経常収益の増加に伴い前第1四半期連結累計期間比7百万円増加して25百万円となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

財政状態

預金残高は、個人預金が順調に増加し、前連結会計年度末比115億円増加して1兆3,110億円となりました。

貸出金残高は、事業性貸出金が減少したことなどから、前連結会計年度末比195億円減少して8,725億円となりました。

有価証券残高については、国債及び社債を中心に安定収益確保に努めるとともに、市場の金利動向に留意しながら慎重な資金運用を図りました結果、前連結会計年度末比56億円増加して3,658億円となりました。

国内・国際業務部門別収支

当第1四半期連結累計期間における資金運用収支は貸出金の利回り低下などにより資金運用収益が減少したことなどから前第1四半期連結累計期間比305百万円減少して4,209百万円、役務取引等収支は役務取引等収益が増加したことなどから前第1四半期連結累計期間比52百万円増加して151百万円、その他業務収支は金融派生商品収益の増加などにより前第1四半期連結累計期間比4百万円増加して150百万円となりました。

国内業務部門の資金運用収支は前第1四半期連結累計期間比308百万円減少して4,101百万円、役務取引等収支は前第1四半期連結累計期間比52百万円増加して149百万円、その他業務収支は前第1四半期連結累計期間比14百万円増加し144百万円となりました。

国際業務部門の資金運用収支は前第1四半期連結累計期間比4百万円増加して108百万円、役務取引等収支は前第1四半期連結累計期間比変わらず1百万円、その他業務収支は前第1四半期連結累計期間比10百万円減少して5百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
資金運用収支	前第1四半期連結累計期間	4,409	104	4,514
	当第1四半期連結累計期間	4,101	108	4,209
うち資金運用収益	前第1四半期連結累計期間	4,728	119	4,833
	当第1四半期連結累計期間	4,374	120	4,483
うち資金調達費用	前第1四半期連結累計期間	318	14	319
	当第1四半期連結累計期間	273	12	274
役務取引等収支	前第1四半期連結累計期間	97	1	99
	当第1四半期連結累計期間	149	1	151
うち役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	614	2	617
	当第1四半期連結累計期間	658	1	660
うち役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	517	0	518
	当第1四半期連結累計期間	508	0	508
その他業務収支	前第1四半期連結累計期間	130	15	146
	当第1四半期連結累計期間	144	5	150
うちその他業務収益	前第1四半期連結累計期間	620	16	636
	当第1四半期連結累計期間	742	5	748
うちその他業務費用	前第1四半期連結累計期間	489	0	490
	当第1四半期連結累計期間	597		597

(注) 1. 国内業務部門は当行及び連結子会社の円建取引、国際業務部門は当行の外貨建取引であります。ただし、円建対非居住者取引は国際業務部門に含めております。

2. 資金運用収益及び資金調達費用の合計欄の上段の計数は、国内業務部門と国際業務部門の間の資金貸借の利息であります。

3. 資金調達費用は金銭の信託運用見合費用(前第1四半期連結累計期間0百万円、当第1四半期連結累計期間0百万円)を控除して表示しております。

国内・国際業務部門別役務取引の状況

当第1四半期連結累計期間における役務取引等収益は、投資信託取扱手数料の増加などにより、前第1四半期連結累計期間比43百万円増加して660百万円となりました。また、役務取引等費用はローン保証料等の減少などにより、前第1四半期連結累計期間比10百万円減少して508百万円となりました。

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
役務取引等収益	前第1四半期連結累計期間	614	2	617
	当第1四半期連結累計期間	658	1	660
うち預金・貸出業務	前第1四半期連結累計期間	152		152
	当第1四半期連結累計期間	155		155
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	215	2	218
	当第1四半期連結累計期間	214	1	216
うち証券関連業務	前第1四半期連結累計期間	0		0
	当第1四半期連結累計期間	1		1
うち代理業務	前第1四半期連結累計期間	18		18
	当第1四半期連結累計期間	19		19
うち保護預り・貸金庫業務	前第1四半期連結累計期間	19		19
	当第1四半期連結累計期間	20		20
うち保証業務	前第1四半期連結累計期間	2	0	2
	当第1四半期連結累計期間	3		3
うち投資信託取扱業務	前第1四半期連結累計期間	44		44
	当第1四半期連結累計期間	89		89
うち保険窓販業務	前第1四半期連結累計期間	63		63
	当第1四半期連結累計期間	44		44
役務取引等費用	前第1四半期連結累計期間	517	0	518
	当第1四半期連結累計期間	508	0	508
うち為替業務	前第1四半期連結累計期間	38	0	39
	当第1四半期連結累計期間	38	0	38
うちローン保証料等	前第1四半期連結累計期間	424		424
	当第1四半期連結累計期間	413		413

国内・国際業務部門別預金残高の状況

預金の種類別残高(末残)

種類	期別	国内業務部門	国際業務部門	合計
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
預金合計	前第1四半期連結会計期間	1,241,387	1,143	1,242,531
	当第1四半期連結会計期間	1,309,537	1,545	1,311,083
うち流動性預金	前第1四半期連結会計期間	521,885		521,885
	当第1四半期連結会計期間	548,457		548,457
うち定期性預金	前第1四半期連結会計期間	716,571		716,571
	当第1四半期連結会計期間	757,286		757,286
うちその他	前第1四半期連結会計期間	2,931	1,143	4,074
	当第1四半期連結会計期間	3,793	1,545	5,339
譲渡性預金	前第1四半期連結会計期間			
	当第1四半期連結会計期間			
総合計	前第1四半期連結会計期間	1,241,387	1,143	1,242,531
	当第1四半期連結会計期間	1,309,537	1,545	1,311,083

(注) 1. 流動性預金 = 当座預金 + 普通預金 + 貯蓄預金 + 通知預金

2. 定期性預金 = 定期預金 + 定期積金

国内・国際業務部門別貸出金残高の状況

業種別貸出状況(末残・構成比)

業種別	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
国内 (除く特別国際金融取引勘定分)	858,517	100.00	872,500	100.00
製造業	61,087	7.12	55,904	6.41
農業、林業	1,106	0.13	1,143	0.13
漁業	785	0.09	733	0.08
鉱業、採石業、砂利採取業	414	0.05	591	0.07
建設業	29,632	3.45	28,872	3.31
電気・ガス・熱供給・水道業	5,187	0.60	10,737	1.23
情報通信業	2,958	0.35	2,664	0.31
運輸業、郵便業	11,261	1.31	11,171	1.28
卸売業、小売業	82,341	9.59	74,749	8.57
金融業、保険業	47,428	5.52	51,546	5.91
不動産業、物品賃貸業	63,962	7.45	65,375	7.49
各種サービス業	113,084	13.17	107,080	12.27
地方公共団体	122,853	14.31	141,011	16.16
その他	316,431	36.86	320,919	36.78
海外及び特別国際金融取引勘定分				
政府等 金融機関 その他				
合計	858,517		872,500	

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引 所名又は登録認可 金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	8,793,776	8,793,776	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株であります。 なお、完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当行におけ る標準となる株式であります。
計	8,793,776	8,793,776		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年6月30日		8,793		7,761		4,989

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 240,900		単元株式数は100株であります。 なお、権利内容に何ら限定のない当行における標準となる株式であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,477,200	84,772	同上
単元未満株式	普通株式 75,676		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	8,793,776		
総株主の議決権		84,772	

(注)1. 上記の「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、「議決権の数」の欄に、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権が1個含まれております。

2. 単元未満株式には当行所有の自己株式45株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 北日本銀行	岩手県盛岡市中央通 一丁目6番7号	240,900		240,900	2.73
計		240,900		240,900	2.73

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半累計期間における役員の異動はございません。

第4 【経理の状況】

1. 当行の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しておりますが、資産及び負債の分類並びに収益及び費用の分類は、「銀行法施行規則」（昭和57年大蔵省令第10号）に準拠しております。
2. 当行は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）及び第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）に係る四半期連結財務諸表について、北光監査法人の四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
現金預け金	30,631	74,084
コールローン及び買入手形	70,634	50,449
買入金銭債権	1,589	1,656
商品有価証券	82	83
金銭の信託	1,384	1,380
有価証券	360,222	365,852
貸出金	892,095	872,500
外国為替	615	481
リース債権及びリース投資資産	5,215	5,267
その他資産	4,209	4,307
有形固定資産	17,474	17,420
無形固定資産	425	420
繰延税金資産	3,535	4,295
支払承諾見返	7,003	6,579
貸倒引当金	14,196	11,174
資産の部合計	1,380,923	1,393,604
負債の部		
預金	1,299,556	1,311,083
借入金	3,414	3,515
外国為替	0	0
社債	3,000	3,000
その他負債	4,629	7,938
賞与引当金	336	88
役員賞与引当金	28	-
退職給付引当金	1,765	1,740
役員退職慰労引当金	426	4
睡眠預金払戻損失引当金	64	63
ポイント引当金	7	8
再評価に係る繰延税金負債	2,900	2,900
支払承諾	7,003	6,579
負債の部合計	1,323,133	1,336,924
純資産の部		
資本金	7,761	7,761
資本剰余金	4,989	4,989
利益剰余金	35,992	36,266
自己株式	784	784
株主資本合計	47,958	48,232
その他有価証券評価差額金	4,739	3,356
土地再評価差額金	5,080	5,080
その他の包括利益累計額合計	9,820	8,436
新株予約権	11	11
純資産の部合計	57,789	56,680
負債及び純資産の部合計	1,380,923	1,393,604

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
経常収益	6,711	6,038
資金運用収益	4,833	4,483
(うち貸出金利息)	3,992	3,725
(うち有価証券利息配当金)	819	731
役務取引等収益	617	660
その他業務収益	636	748
その他経常収益	¹ 623	¹ 146
経常費用	5,102	5,168
資金調達費用	320	274
(うち預金利息)	281	237
役務取引等費用	518	508
その他業務費用	490	597
営業経費	3,642	3,389
その他経常費用	² 130	² 397
経常利益	1,608	869
特別利益	0	-
固定資産処分益	0	-
特別損失	1	0
固定資産処分損	1	0
税金等調整前四半期純利益	1,607	869
法人税、住民税及び事業税	622	338
法人税等合計	622	338
少数株主損益調整前四半期純利益	985	530
四半期純利益	985	530

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	985	530
その他の包括利益	60	1,383
その他有価証券評価差額金	60	1,383
四半期包括利益	1,045	852
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,045	852

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

税金費用の処理

当行及び連結子会社の税金費用は、当第1四半期会計期間を含む年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じることにより算定しております。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

当行は、平成25年5月14日開催の取締役会において、平成25年6月21日開催の第109期定時株主総会最終の時をもって役員退職慰労金制度を廃止することを決議し、同株主総会において、退職慰労金の打ち切り支給が決議されました。これにより、当第1四半期連結会計期間において、「役員退職慰労引当金」を全額取り崩し、打ち切り支給額未払分347百万円を「その他負債」に含めて表示しております。

なお、連結子会社については、従来どおり、役員に対する退職慰労金の支給見積額のうち、当第1四半期連結会計期間末までに発生していると認められる額を「役員退職慰労引当金」として計上していません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 貸出金のうち、リスク管理債権は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
破綻先債権額	1,071 百万円	876 百万円
延滞債権額	26,359 百万円	23,497 百万円
3ヵ月以上延滞債権額	51 百万円	138 百万円
貸出条件緩和債権額	2,004 百万円	2,333 百万円
合計額	29,487 百万円	26,845 百万円

なお、上記債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

(四半期連結損益計算書関係)

1. その他経常収益には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
貸倒引当金戻入益	481 百万円	百万円
償却債権取立益	96 百万円	69 百万円

2. その他経常費用には、次のものを含んでおります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
貸出金償却	26 百万円	33 百万円
貸倒引当金繰入額	百万円	323 百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	318百万円	182百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	299	35	平成24年3月31日	平成24年6月25日	その他利益 剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	256	30	平成25年3月31日	平成25年6月24日	その他利益 剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)2	合計
	銀行業	リース業	計		
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	6,099	564	6,663	47	6,711
セグメント間の内部経常収益	26	40	67	35	102
計	6,125	605	6,730	82	6,813
セグメント利益	1,569	26	1,595	18	1,614

(注)1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クレジットカード業であります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,595
「その他」の区分の利益	18
セグメント間取引消去	5
四半期連結損益計算書の経常利益	1,608

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)2	合計
	銀行業	リース業	計		
経常収益					
外部顧客に対する経常収益	5,310	673	5,984	53	6,038
セグメント間の内部経常収益	24	26	51	35	87
計	5,335	700	6,036	89	6,125
セグメント利益	813	33	847	25	872

(注)1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、クレジットカード業であります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	847
「その他」の区分の利益	25
セグメント間取引消去	3
四半期連結損益計算書の経常利益	869

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「リース業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(有価証券関係)

- 1 企業集団の事業の運営において重要なものであり、前連結会計年度の末日に比して著しい変動が認められるものは、次のとおりであります。
- 2 四半期連結貸借対照表の「有価証券」について記載しております。

その他有価証券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	6,442	7,495	1,052
債券	238,681	243,633	4,951
国債	132,437	134,949	2,511
地方債	28,422	29,458	1,036
社債	77,822	79,225	1,403
その他	49,540	50,510	970
合計	294,664	301,639	6,975

当第1四半期連結会計期間(平成25年6月30日)

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	6,831	8,243	1,411
債券	247,975	250,713	2,738
国債	140,439	141,785	1,345
地方債	30,084	30,593	509
社債	77,451	78,334	882
その他	48,969	49,668	699
合計	303,776	308,625	4,849

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

		前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 6 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	円	115.21	62.03
(算定上の基礎)			
四半期純利益	百万円	985	530
普通株主に帰属しない金額	百万円		
普通株式に係る四半期純利益	百万円	985	530
普通株式の期中平均株式数	千株	8,553	8,552
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めな かった潜在株式で、前連結会計年度末から重 要な変動があったものの概要		該当事項はありません。	該当事項はありません。

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月 7日

株式会社北日本銀行
取締役会 御中

北光監査法人

代表社員 公認会計士 遠藤 明 哲 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 下田 栄 行 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社北日本銀行の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社北日本銀行及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当行（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。